

宮崎善仁会病院 リウマチセンターニュース

第31号 (2024年10月号 [2024/10/7 発行])

朝夕はやや涼しくなってきたものの、厳しい残暑が続いております。体調に気をつけつつお過ごし下さい。さて、本号では、本年、改訂されました、「関節リウマチ (RA) 診療ガイドライン 2024 改訂」につきまして、前号の続きをお話しさせて頂きたいと思っております。

【薬物治療アルゴリズム：フェイズⅡ】

フェイズⅠの治療については、前号のリウマチセンターニュース第30号(2024年9月号[2024/9/9 発行])をご参照下さい。フェイズⅠでのメソトレキセート (MTX) を中心とした従来型経口抗リウマチ薬 (csDMARD) での治療で、治療目標が達成できない (6ヶ月以内に治療目標である「臨床的寛解もしくは低疾患活動性」が達成できない、あるいは、治療開始後3ヵ月で改善がみられない) 場合にはフェーズⅡに進みます。

フェイズⅡでは、MTX 併用、非併用にかかわらず、生物学的修飾抗リウマチ薬 (bDMARD) またはヤヌスキナーゼ阻害薬 (JAK 阻害薬) の使用を検討します。短期的治療では TNF 阻害薬と JAK 阻害薬の有用性はほぼ同等ですが、長期安全性、医療経済の観点から bDMARD を優先しますが、JAK 阻害薬使用時には、悪性腫瘍、心血管イベント、血栓イベントのリスク因子を考慮します (注5)。MTX 非併用の場合は、bDMARD では、TNF 阻害薬より、非 TNF 阻害薬を優先しますが、この場合の非 TNF 阻害薬は IL-6 阻害薬を意味します。また、MTX 非併用の場合は、bDMARD または JAK 阻害薬の単剤療法も考慮できるとしています。[なお、bDMARDs につきましては、リウマチセンターニュース第5号～第7号および第11号、JAK 阻害薬につきましては、第8号～第9号をご参照下さい。当院のホ

ームページあるいは文末の QR コードよりアクセス出来ます。]

これらの治療で、治療目標が達成できない場合 (上述) は、次のフェイズ (フェイズⅢ) に移行して治療を行います (図1)。

【薬物治療アルゴリズム：フェイズⅢ】

フェイズⅡで bDMARD または JAK 阻害薬を使用しても効果不十分である場合、フェイズⅢでは他の bDMARD または JAK 阻害薬への変更を検討します。このとき、TNF 阻害薬で効果不十分な場合は非 TNF 阻害薬への切り替えを優先しますが (注6)、その他の薬剤については、どの薬剤への変更が適切であるかのエビデンスは不足しているため推奨は作成されておりません。次のガイドラインでアップデート予定となっております。

【薬物治療アルゴリズム：治療目標達成後】

治療目標達成・維持、関節破壊進行抑制、身体機能維持ができた場合に、薬物の減量を考慮します。フェイズⅠよりの MTX を含む csDMARD の減量は推奨には含まれていませんが、実臨床ではこれらの薬剤を減量可能な症例も存在します。エビデンスによる推奨は今後の課題として、今回のアルゴリズムではエキスパートオピニオンとされています。

関節リウマチ診療ガイドライン 2024 改訂 薬物治療アルゴリズム

太い矢印は“強い推奨”，細い矢印は“弱い推奨”であることを示す。
 点線矢印（.....▶）はエキスパートオピニオンであることを示す。

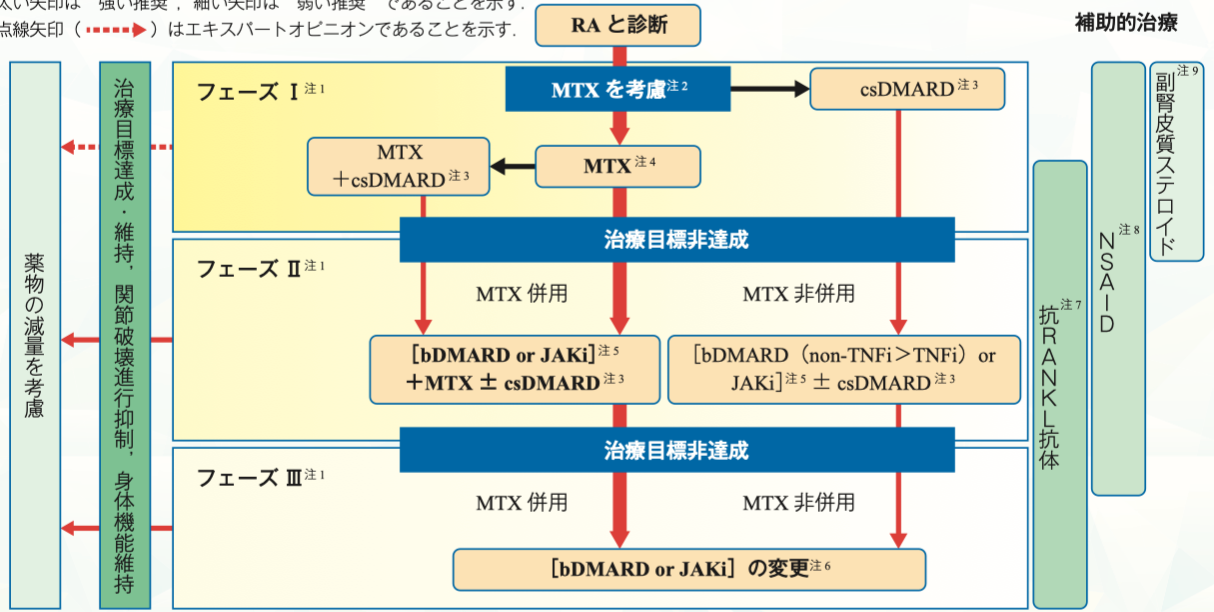


図 1 関節リウマチ診療ガイドライン 2024 改訂 薬物治療アルゴリズム

【薬物治療アルゴリズム：補助的治療】

非ステロイド系抗炎症薬 (NSA1D) に加えて副腎皮質ステロイド (以下 GC) (経口や筋肉注射などによる全身投与)、抗 RANKL 抗体はすべて補助的治療と位置づけられています。GC は、早期の RA 患者で少量短期間の使用にとどめ (注 9)、減量後、フェイズ I 期間内に可能な限り中止します。抗 RANKL 抗体による治療は、海外のリコメンデーションやガイドラインに推奨がなく、薬物治療のアルゴリズムの中でわが国独自の RA の補助的治療薬として組み入れています。抗 RANKL 抗

体は、疾患活動性改善効果や軟骨破壊抑制効果はありませんが骨破壊抑制効果があり、疾患活動性が低下しても骨びらんの進行がある患者、特に RF/ACPA 陽性患者で使用を考慮するとしています (注 7)。このため、フェーズ I の中程からの使用を検討することが図 1 で示されています。NSA1D は、長期使用での消化管障害などの副作用を考慮し、疼痛緩和目的に必要な最小量で短期間の使用が望ましいとしています (注 8)。[補助的治療についてはリウマチセンターニュース第 3 号をご参照下さい] (日高利彦)

リウマチセンターニュースのバックナンバーの必要な方は当院の職員に気軽にお尋ね下さい。
 なお、当院のホームページでもバックナンバーを確認出来ます。

(https://www.m-zenjin.or.jp/publicity_cat/publicity_1)

(QRコードは右の通り)

